

秩父・皆野新校基本計画検討委員会（第2回） 議事録

- 1 日 時 令和5年5月22日（月） 午後3時開会
午後4時30分終了
- 2 会 場 県立秩父高等学校図書館2階研修室
- 3 出席委員 栗藤委員長、増田副委員長、小泉副委員長、横田委員、新井委員、
児玉委員、野澤委員、千島委員、永田委員、坂本委員、落合（範）委員、
吉田委員、白澤委員、田村委員、外山委員、木戸委員、藤倉委員、
上遠野委員
- 4 事務局 魅力ある高校づくり課 中島、坂本、高辻、橋本
- 5 協 議 「秩父・皆野新校基本計画骨子（案）」について

栗藤委員長 前回の委員会では、両校において作成いただいた新校基本計画検討案に対して、御意見を伺っております。参考資料として、新校基本計画検討委員会、新校準備委員会の議事録を付けておりますので、後ほど御参照いただければと思います。今回は事務局にて、両校で検討した案を踏まえ、さらに検討させていただき、資料1の骨子案としてまとめております。それでは、「資料1 秩父・皆野新校基本計画骨子（案）」の説明を事務局からお願いします。

事務局 （秩父・皆野新校基本計画骨子（案）のうち課程・学科等、学校規模について説明）

栗藤委員長 学科名及び募集学級数について、御意見があればお願いします。

野澤委員 秩父高校英語科の野澤と申します。本日はよろしく願いいたします。国際探究科という学科名について、流行に左右されず永く使われるように考えてくださったということですが、具体的にイメージしている、先駆けてやっている他県の例などリサーチされているようでしたら教えていただきたいと思います。国際科は聞いたことがあります、国際探究科はなかなか聞いたことがなかったので、その辺りをお伺いしたいと思います。

栗藤委員長 ありがとうございます。事務局からお願いします。

事務局 はい。学科名については、全県的にいろいろと調べました。全国的に見ると、国際科という名称が一番多い状況です。国際探究科については、全国で3校程度あると確認しております。今回、どうして国際探究科という名称を原案としたかと言いますと、実施方策の基本方針の中で、国際に関する学科とうたっているところ、また探究活動を進めていくということなどを踏まえて原案としたところです。皆様からたくさんの御意見をいただいて、新校に相応しい学科名にしていきたいと思っ

ております。なお、第2期実施方策では、秩父・皆野新校を含め国際に関する学科を3校に設置予定でして、和光新校は国際科、岩槻新校及び秩父・皆野新校は国際探究科を原案としております。

栗藤委員長 はい。ありがとうございました。他に御意見はございますか。他の委員会でもこの部分はいろいろ御意見が出るところかでしたので、しっかり時間をかけたいと思います。

野澤委員 学級規模についてですけれども、国際に関する学科と普通科の併置校とあるものの、国際探究科は学級数が少なく、大多数が普通科になると思います。その中で、普通科のイメージが余り湧かないなと感じています。国際探究科の倍率を高くして第2志望として普通科に入るイメージなのでしょうか。国際探究科を目玉にしたいという思いがあるのだと思いますが。例えば国際探究科を特進クラスのようにしていくのか、科の中で文系理系に分けるのかなど、カリキュラムのイメージ、ビジョンがあれば、お聞きしたいと思います。

栗藤委員長 はい。ありがとうございました。事務局からお願いします。

事務局 中身については令和6年度以降に検討することになっております。イメージとしては、野澤委員がおっしゃった通り、文系や理系に分かれていくようなことを考えておりますが、実施方策ではそこまでの具体をうたっていない、というのが正直なところです。確かに普通科の特色が見えにくいという御指摘はあるかと思いますが、進学を重視した普通科という秩父高校の伝統は意識しております。国際を強調している割に1クラスしかないのか、という御意見もごもっともではありますが、秩父高校の伝統を引き継ぎながら、普通科のニーズの高さも踏まえております。国際に関する学科を増やした方が良いという御意見があればいただきたいと思えます。

栗藤委員長 よろしいでしょうか。専門学科では、25単位以上専門科目を設定する必要がありますので、教員配置の問題もありますが、1クラスなのかそれ以上なのか、学科名も原案で良いのか、いろいろと思われることがあるのではないかと考えておりますので、もう何名か御意見をいただければと思いますが、いかがでしょうか。先ほど事務局から説明があったように、国際に関する学科を設置する学校が3校立ち上がる中で、一つは和光国際高校の外国語科をベースとした新校があります。それに加えて岩槻新校と秩父・皆野新校については、地域といろいろな関わりをしていくということで、国際にプラスして探究と付け加えています。三つの学校でそれぞれ別々の学科名をつけるということも、もちろんあるかとは思いますが、できるだけ3校の系統性のようなものを持たせた方が良いのではないかと事務局では検討しており、三つの新校の学科名の原案はそういう形の並びで考えているところです。その中で、他の委員会では、国際探究はピンと来ないので別の名称はどうだろうかという意見も実際に出ておりますので、皆さんの御考えがあれば、持ち帰りまして、検討の材料としたいと思います。

児玉委員 学科名なんですが、資料に目指す学校、育てたい生徒像とありますので多少は把握できる部分があるかなと思いますが、国際と探究ということについて。本

校が今年度から総合的な探究の時間において取り組んでいる内容というのは、秩父地域について掘り下げて考えようということを行っています。そういうイメージによって学科名に探究という言葉を入れていただいたのだとすると、国際と探究の内容がマッチしないのかなと。グローバル、世界に羽ばたく人材を育成し、この学科からどんな生徒が飛び立っていくのか、現場に残る教員としてはどうなのかなという疑問があります。それからもう1点は、普通科4、国際探究科1クラスということで、単純に割ると1クラス40名だと思いたしますが、御承知のとおり、本校では現在5クラス募集ですが6クラス展開させていただいております。そこには何らかの配慮があるのかと思うのですが、秩父地域唯一の進学校をうたい、過去をたどれば多くの人材を輩出しているという中で、先ほど野澤委員からも話がありましたが、その点を見失ってしまうと、秩父市の中学生が地域の外に流れて行ってしまっているという状況の中で、進学を希望する生徒が秩父高校ではなく他の地域の公立高校や私立高校に流れていくことも十分考えられるのかなと思っています。普通科での取組という部分も、現場の教員、これから新たに入られる教員が200人の定員を確保するために考えなくてはいけないと思います。国際に関する学科と同時に、現在の多くの取組をいかに続けていくことができるのかという部分で、新校でも引き続き少人数展開やコース制が可能なのかという辺りを踏まえて、県としての見通しをお伺いしたいと思います。

栗藤委員長 はい。事務局の方から何かありますか。

事務局 最初の学科名のところは、地域について探究されているということもあるかと思しますので、グローバルという言葉も出ておりましたが、いろいろと代案を出していただけると有り難く思います。学級数のことも御意見がありましたが、少人数展開やコース制については、学校としての要望は承っております。骨子案では大枠を示すことに留めているため、なかなか明記することはできませんが、令和6年度以降に教育課程等を検討していく中で、御意見を踏まえ、関係課とも相談しながら少人数展開やコース制も考えていきたいと思っています。現時点では、はっきりと断言できないところでございます。

児玉委員 是非よろしく申し上げます。

栗藤委員長 はい、ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。

新井委員 ただ今、学級数や学科名について御説明いただきましたが、資料1にあります基本理念や教科指導の項目について拝見すると、文言について国際探究科に重きが置かれている印象を受けました。教科指導の基本方針アにも、豊かな国際感覚を身に付けさせるとありますが、このような表現は他の学校の教科指導の基本方針、特に普通科にもあるものなのではないでしょうか。私の勉強不足でしたら申し訳ないのですが、骨子案を見る限り、普通科4クラス、国際探究科1クラスというバランスに合致しないような印象を受けました。中学生が見たときに、国際探究科がメインで普通科がサブという印象を受けるのではないかと思ったのですが、この点について御説明いただければと思います。

栗藤委員長 前回の検討委員会でも御指摘のあったところですが、事務局いかがです

か。

事務局 教科指導の基本方針Aに、多様な科目を設定とありますが、この部分は国際科だけでなく普通科にもかかっております。また普通科の生徒にも国際感覚を身に付けてもらいたい、という思いが少なからずあります。確かに国際探究科に見えてしまうかもしれませんが、普通科の生徒も多様な科目を設定する中で国際感覚を身に付けられればと思っております。普通科が薄いということもありましたが、目指す学校ウに、地域の歴史や伝統を重んじる中で、進学を重視した創造的な学びを実践しとあり、普通科の部分を入れた記載になっております。まだまだ足りないというところもあるかもしれませんが、普通科についても盛り込ませていただいております。

栗藤委員長 次のところが基本理念についてのパートになりますので。もちろん学科名などにも深く関わってくるので、当然のことかと思えます。では、後半部分についても説明いただいて、このページ全体で議論できれば良いと思えますので、次のパートの説明をお願いできますか。

事務局 (秩父・皆野新校基本計画骨子(案)のうち基本姿勢(目指す学校、育てたい生徒像)について説明)

栗藤委員長 はい、学科数及び募集学級数に加えまして目指す学校、これは目指す学校像ではなく目指す学校ですので、御留意いただきたいと思えます。目指す学校像は新校が立ち上がった後でその学校が考えることになりますので、言葉の重複を避けるために、目指す学校としております。実際はこういった言葉から拾って、目指す学校像や三つのポリシーみたいなものが生まれてくるのだと思えますけれども、そういう表現にしています。また、育てたい生徒像についても具体的な話が出ていますが、先ほど新井委員から御指摘がありましたように、国際のことばかり書いているというのは、こういうところにそういう記載が多めにあるということかもしれません。私見ですけれども、普通科と専門科が併置されている学校では、普通科の特色を言葉で表現するのはなかなか難しく、まんべんなくいろいろなことを学べるのが普通科の特長であるので、特にここを学べるんですということは、どうしても併置されている専門学科のことを表現することが多くなる傾向があります。なので、埼玉県内で例えば、普通科が8クラスくらいあって、9クラス目に違う学科が置かれている学校が結構あったりするんですけれども、そういったところも、9クラス目の学科の特色がこういったところには出てくる傾向があります。これまで秩父高校でも皆野高校でもそうなんですけれども、普通科や商業科といった一つの大学科だけで学校が作られていたので、その部分を端的に説明してきたと思えますが、併置されている場合には、よりその特長が際立つ方を書くという傾向がありますし、また、置かれている専門学科がその学校の全体としての特色を作り出していくという効果もあるのだと思っております。記載が国際に振りがちなのは致し方ないことなのかと思ったりもしていますが、あくまで私見として申し上げましたので、皆さんの御意見をいただければと思えます。

千島委員 質問という形なんですけれども、目指す学校と育てたい生徒像を見させて

いただいて、来年度から事前に実施して令和8年度からできあがった形で、というよりは、だんだん実績を重ねて生徒数も増えてきてというイメージになるのかなと思っています。そういった部分で、学科の話に戻ってしまうのですが、普通科4クラス、国際探究科1クラスというのは、始めはなかなか国際探究科というイメージが持ちづらいので1クラスというのはそれで良いのかなと思っています。ですが、実績を重ねていく中で国際探究科の需要が高まってきたりとか、この学科で学びたいという生徒が増えてきたときに、将来的に変わるような可能性はあるのか、質問させていただければと思います。

事務局 令和8年度に普通科4クラス、国際探究科1クラスでスタートしたら、しばらくはこの形でいくことになると思います。数年重ねていって2.0倍以上の倍率が出たような場合には、検討していくことになると思います。何年で変わるというのはここでは申し上げにくいのですが、しばらくはこの形が動かないと思います。しばらくというのが5年なのか10年なのかはなんとも言えませんが、ここで原案をしっかりと固めたいと考えていますので、御意見をいただければと思います。

栗藤委員長 しばらくは最初に決めたスタイルで進んでいこうということですね。平成年代に行われた、いきいきハイスクール構想での再編整備計画でも、新校ができてから10年くらいは何も変えることなく動いてきたということがあります。過去の話ですが、そういうことがありましたので、同じようになるのかなと思っています。事務局から補足があるそうです。

事務局 千島委員からお話いただいた、普通科4、国際探究1の考え方についてですが、基本的には事務局で学級数を検討する際に、おっしゃるような発想で、今までの実績がある普通科と、新しい国際に関する学科ですので、なかなかそこで一気に増やしてしまうと、リスクもあるのかなという発想はありました。あと、秩父高校の先生方からは普通科についての御意見があったかと思いますが、新校にとって普通科が大事なものであるということは、いろいろと御意見を伺っている中で、認識したところですが、ただ、この表記に関しましては、先ほど委員長が申し上げたとおり、普通科というところでなかなか具体が書きづらい部分があるので、共通の要素を記載したり、ある程度エッジがかかっている国際に関する学科に関する記載があったりしています。普通科と国際探究科が将来的にどんなイメージになっていくかについては模索しているところです。両学科ともしっかりと両立し、生徒募集ができる形にしなければならないと思うんですが、それにつきましては、引き続き、本委員会やそれ以外の場でも御意見をいただきながら、練っていく必要があるのかなと思っています。私見ですが以上です。

栗藤委員長 進行側から事務局に説明を求める形になりますが、秩父高校の検討案の中に、進学校というフレーズがたくさんあったんですが、骨子案ではそれを落とした理由や経緯を説明してもらえればと思います。

事務局 第1回委員会資料での秩父高校案の中には、進学校という表現が全ての項目に登場しておりました。新校準備委員会で御検討いただいた際に、進学校という要素も大事だけれども、皆野高校がこれまで行ってきた取組も含めて、もっと幅広く

秩父・皆野新校が発展して行ってほしいという御意見等がありました。そういったところもあり、事務局で検討した結果、目指す学校ウにある、進学を重視したという表現に整えております。そういった形で、進学校の伝統を生かしつつ、更に発展していくためにということで、いったん、進学校という表現を落としているところです。

栗藤委員長 ここで参考資料4「秩父・皆野新校準備委員会（第1回）議事録」を見ていただければと思います。例えば通し番号9では、あまり進学に特化し過ぎず、総合的な人間力を育成していくという御意見や、通し番号11「進学校」を看板にし過ぎると、意外と優秀な中学生が敬遠してしまうというといった御意見が実際にありました。事務局としても、本当にそういうことがあるのか分からないんですけども、委員の皆さんには、準備委員会でこういった御意見があるということを入れておいていただいて、こういった表現が良いのかを検討いただければと思います。事務局では苦肉の策として、進学を重視したという表現に抑えているところがあります。地域の皆さんの声としては、進学校として、というところを認めつつも、統合する皆野高校のこれまでの取組を高く評価する声が多くありました。そういったところを一つにしていく中では、余り進学校と言い過ぎない方が良いのではないかと、という意見が少し目立ちました。それをどのように受け止めるかは皆さん次第ということになるかもしれませんが、そういうことを踏まえて、何か御意見があればお願いします。

新井委員 現在、中学校・塾訪問をさせていただいております、よく話題に上がるのは進路実績のことなんです。秩父高校を志望する生徒は、普通科で大学進学をしたいという方が多いんですね。例えば国公立大学への進学者数などは、多くの中学校や塾でも気にされています。そういった意味で、例えば新校で国際感覚を身に付けることやグローバルな視点といったところが推されている反面、今まで進学実績を上げるためにやってきたことが、余り進学校を推しすぎない方が良いという意見を汲み取ることで、これまでのメリットや特色が消えてしまっているような印象を持っています。確かに全員が大学進学とか半数以上が国公立大学に進学するとかそういった状況ではありませんが、秩父地域は学校も少ないですし、中学生の数も少ないんですが、一方で、地域の半数くらいの中学生在私立や秩父圏外に出てしまうという状況もあるんですね。なので、いろいろな進路がある中でも、進学もしっかりできるんだよ、という文言も入れていただくと非常に嬉しく思います。

栗藤委員長 進学という側面とそれ以外の部分とで学校の魅力をどう表現していくか、言葉の扱いはなかなか微妙だとは思いますが、先ほど申し上げた通り、学校の皆さんの感覚からすれば、現在の秩父高校の進学校としての伝統を引き継ぎたい。地域の声としては進学校進学校と言い過ぎるのはどうなのかということで、この軸線だけで議論が進んでいるわけではないんですけども、少しこの部分が気になっておりましたので、いただいた御意見を事務局の方で更に検討していきたいと思っております。

増田副委員長 目指す学校アからウの順番ですが、優先順位はあるのかどうか。例え

ばアに重きが置かれていたりするのか、あるいは並列の関係なのか、その辺りをお聞かせ願えればと思います。

事務局 各項目については、基本的に並列関係にあります。項目によって国際に関する学科に重点が置かれた記載になっていたりするなど、内容において種別はあると思いますが、この後に出てくる項目も含め、全て並列関係にあります。そして、基本方針に対応するように具現化を記載しております。例えば基本方針アは具現化のアやイに掛かっている、というようなことです。そういった関係性でまとめております。

増田副委員長 どうしてもアが最初で目立ってしまうので、そういった意見が校内でも出ていたということでお伝えしました。

栗藤委員長 ありがとうございます。では、次のパートに進みます。

事務局 (秩父・皆野新校基本計画骨子(案)のうち基本姿勢、教科指導について説明)

栗藤委員長 両校の検討案を中心に事務局で一つにまとめていく作業をしています。両校案それぞれの言葉が使われつつも、事務局としての判断で記載している部分もあります。御意見があればお願いします。

野澤委員 基本方針アにある、多様な科目という表現に全てが包括されているのかと思うのですが、国際探究科を仮に設定するのであれば、選択科目として具体的に例えばどういう科目、まあこれから考えていくものだと思いますが、イメージしているものが恐らくあって、こういう名前が出てきたのかなと思うのですが、国際探究科を設置している学校のカリキュラムの中で、必ずこういうものを設定してほしいですか、文系であればこういうもの、理系であればこういうもののような具体的な、恐らく学校設定科目になると思うのですが、こういったものを想定されているのか、教えていただければと思います。

事務局 国際探究科に限って言いますと、基本的に国際に関する学科は外国語に関する科目を25単位以上履修する必要があります。その中で、野澤委員がおっしゃる通り、例えば学校設定科目として、国際地誌ですとか伝統芸能ですとか国際食文化のような、英語に限らず普通教科でも国際に関する学科の科目を設定できればと考え、多様な科目という表現にしております。詳細は今後検討していくことになると思いますが、イメージしております。

栗藤委員長 今の段階ではイメージということですが、教科を超えた学びというものが含まれているということでしょうか。これまでの外国語科とは違うというのは、そういった部分かと思います。語学教育だけでなく、周辺にも学びの領域が広がっていくイメージかなと思います。

野澤委員 学際的なのとか、教科を越えてというところで、もしかしたらという期待を込めてなんですけれども、例えば、国際食文化の授業が設定されたならば、英語科の教員と家庭科の教員が一緒になって、ティームティーチングを行うとか、そこに加配とか、そういうことも可能性としてあるのでしょうか。そこに教員をたくさん費やしてもいいというか、なかなかそういう科目は今までなかったかと思うのですが、是非そこまで想定してほしいと思います。理科の教員と体育の教員

が一緒になって環境問題を考えると、そういったことまでできるような可能性はあるのでしょうか。

事務局 可能性はゼロではないと思っています。関係課といろいろ相談しなくてはいいませんが、そういったことができるといいと感じています。他県を視察すると、普通教科でも英語を話せる教員が授業をしている場合などもありました。チームティーチングもできればいいなと思いますが、必ず加配がつくとはこの場で言い切れないところがございます。

栗藤委員長 高校の先生方の配置については、高校標準法という法に拠っている部分があります。その案文と、県が独自でどれだけ予算を付けられるかという話になってきますが、予算については予算編成過程を経て決まるため、どうしてもこの場ではっきりしたことが申し上げられません。可能性はゼロではないという言い方になるかと思います。

増田副委員長 高校教育指導課にお伺いしたいのですが、国際探究科は英語が専門科目になるとするんですけれども、英語以外で国際に関する学科で専門科目になりそうなものはありますか。

田村委員 国際探究科については、和光国際高校のような外国語科に近い学びのイメージなのか外国語に縛られない専門学科という位置付けなのかということによるかと思いますが、専門科目については調べさせていただきたいと思います。

増田副委員長 是非協力いただけると幸いです。よろしく申し上げます。

事務局 (秩父・皆野新校基本計画骨子(案)のうち生徒指導について説明)

栗藤委員長 よろしいでしょうか。いくつか両校の案にあったもので落ちているものがあるんですけれども、具現化に記載するには抽象的なものは外しています。制服に関する記載もありましたが、これは後々、新校開設委員会で検討することになります。ですので骨子案には載せておりません。

事務局 (秩父・皆野新校基本計画骨子(案)のうち進路指導について説明)

栗藤委員長 具現化アの、生徒一人ひとりの表記については、違うページでは漢字になっていたり、表現の揺らぎがあるのですが、そこはご容赦ください。後で事務局の方で整理していきたいと思います。表現としてはどちらもありだと思えますが。公用文だと漢字表記になるのでしょうか。今日は進路指導主事の集まりがあって両校の進路担当の委員2名が欠席ということですので、もし教頭先生から何かあれば、御意見をいただければと思います。

千島委員 進路指導に関してなんですけれども、進学で新校を卒業した生徒が秩父地域を出て、更にその先の将来を想像したときに、いつかは戻ってきてもらいたいという思いがあります。Uターンしてきて、大学を卒業してすぐというわけにはいかないかもしれないけれども、戻ってきたときに選択肢があるとか、自分の学んできたことがどういう形で生かせるのかという選択肢を持って、卒業して行ってほしいという思いがあります。そういった中で、具現化オの部分に当たるのかなという感じがするのですが、もう少しインターンシップとか具体的な職業体験のようなものを書いておいた方が、巣立っていく生徒たちのイメージにつながるのかなと。

その結果、Uターンしてくる子も増えるのではないかなと思います。意見として、インターンシップなどを入れた方が良いのかなと思います。

事務局 委員がおっしゃるとおり、これは準備委員会でも意見が出ましたが、秩父で育った生徒が秩父で学んで、外に出ていった後、最終的に秩父に戻ってきて活躍してほしいという思い、そういったことを踏まえて、基本方針ウに、地域社会に貢献しようとする態度、具現化オで、地元企業と高校生のうちから関わりを持てるよう、外で力をつけた後、最終的にもう一度秩父地域に戻ってきて自立していくという願いを込めてそのように記載しております。お話のあったインターンシップについては、現在の秩父高校の就職者数などとも関係してくることであると思いますが、いろいろ考えていきたいと思いますので、今後事務局で検討していきたいと思います。

増田副委員長 国際探究科を卒業した生徒の進路先について、どのように想定されているのでしょうか。

事務局 新設する学科ですのでこと想定することは難しいのですが、国際に関する学科ですので、海外に目を向けた進学ということも考えてほしいと思っています。ただし、実際は、和光国際高校でもそれほど多くの人数が海外の大学に進学しているわけではありません。現在の秩父高校の進学実績が参考になるかと思いますが、その中でも例えば国際教養学科ですとか、国際に関する学科のある大学、学部に進学する生徒が増えていくということがイメージされるのかなと思います。一方で、探究活動等を通して視野を広げて、もっといろいろなことを学びたいと考えてほしいという願いもありますので、外国語に関する学びに留まらず、いろいろなところで活躍してほしいという思いがあります。

栗藤委員長 準備委員会でもいろいろな意見をいただいているわけなんですけれども、国際的なことを学んで、その教養を身に付けた人が秩父に戻ってきて、その教養をこの地域に貢献する形で伝えていくことが理想的なのではないか、ということです。秩父地域は、インバウンドでたくさんの方の外国の方がお見えになったり、アニメの資源ということでも、いろいろな方を吸引する力を持っているエリアですから、そういったところで、いろんな事業とつなげていくということがあっても良いのかなと。準備委員会では、商工会の方など産業界からも意見が集まるので、そんな話もあったというところです。出て行くだけでなく、必ず戻ってくる人材を育成していくということが大事な考え方なのかなと思います。

事務局 (秩父・皆野新校基本計画骨子(案)のうち生徒募集・その他について説明)

栗藤委員長 新校を立ち上げる際に最も力を入れていく分野になってきます。中学生や地域の皆さんに、新しい学校はこういうところだ、ということがしっかり伝わらないと、志願してもらえません。志願してもらえるとすることは、それだけ魅力をしっかり伝えられたかということにかかっています。現在の両校がこれまで一生懸命取り組んできたことと変わらない部分はあるかもしれませんが、新しい学校をしっかりと打ち出していくことをお願いしたいと思います。例えばPR動画にしても、既に秩父高校では大変立派なものがありますし、地域とのつながりとい

うところでは、皆野高校は本当に高く評価されています。そういった取り組んでいただいているノウハウ、経験がありますので、そういうところをうまく知恵を出し合ってやっていただけると良いと思います。

野澤委員 具現化ウとエなんですけれども、説明会を実施するとありますが、もう少しぼやかしてしまった方が可能性は広がると思ひまして。例えば、説明する機会を多く設けるなど、それくらいにしておいた方が良いのかなと思ひました。今はオンラインなど集まらなくてもできることあたりすると思ひますので、少し幅を持たせた言い方にするのもありかなと思ひています。

事務局 参考にさせていただきます。

栗藤委員長 具現化エにある、広域なエリアというのは、恐らく準備委員会で出た意見を踏まえているのだと思ひますが、鉄道網を中心に秩父以外にも募集を広げたいけると良いのではないかと、地域地域と狭いエリアで考えていると、外から中学生を呼び込むことができないのではないかと、という意見を受けてこういう表現にしているのだと思ひます。

千島委員 具現化エ、広域なエリアについてなんですけれども、高校の大きな役割として、他地域から呼び込むというのが結構大きな役割だと思ひています。他地域から生徒を呼び込んで、秩父ならではの学びを通じて秩父に戻ってもらうというのも大事だと思ひます。そういった中で、電車を通える範囲というのはもちろんのこと、山村留学のような形で、例えば都内の生徒が落ちついた学校で学びたいとか、イメージとしては隠岐島前高校のような形なんですけれども、そういったことができないのか、という質問です。

事務局 隠岐島前高校のように全国募集というのはなかなか難しいと考えています。参考の御意見として受け止めたいと思ひます。

栗藤委員長 埼玉県の公立高校の入学者資格には、保護者とともに県内に居住していることが条件になっておりますので、そこを例外的な取扱いにするには、入試制度を整備するなどのハードルがあると思ひます。小鹿野高校は山村留学を試行としてやっていますが、保護者と一緒に居住していなくても良いという例外的な取扱いで出願資格を与えているというところでは、他に何かありますか。それでは全体を通して何かあればお願いします。

野澤委員 募集のところについてはもう少し検討していただいて、国際探究科を文系理系に分けることも想定して本当にこの募集で良いのかとか、もう少し検討いただきたいと思ひます。あと2点ありまして、3ページ目の生徒指導と4ページ目の進路指導の両方にかかるのですが、基本方針のところでは、態度を養うという表現が3つあるので、少し遠慮しすぎなのかなという印象を受けました。学校生活を送ろうとする態度を養うとありますが、もう少し元気があっても良いのかなと思ひます。良い案が思いつかないのですが、秩父地域全体を元気にするという意味も込めて、もう少し活力ある表現にしても良いのかなと思ひました。

事務局 秩父高校案を生かしたところではありますが、基本方針ですので、御指摘の通りもう少しはっきりと示しても良いのかもかもしれません。その点も含めて事務局で検

討したいと思います。

栗藤委員長 後々策定される新校基本計画は新校の設計図面となります。書かれていることができていないではないかということになって困りますので、完成後をしっかりイメージしながら言葉遣い含め検討していきたいと思います。他いかがでしょうか。私から1点申し上げたいと思います。秩父高校案に、進学型単位制と言う表現がありました。骨子案では落ちています。現在、埼玉県では単位制高校をどうするか、慎重に判断するという部分がありまして。どうして慎重に判断するのかと言いますと、国の通知で、教員定数を水増しするためだけのよう、言葉が良くないのを承知で申し上げますが、「なんちゃって単位制」はだめですよ、という通知が出ていますね。単位制を導入する場合、本来の趣旨から外れた形では良くないので、例えば入学年次に関わりなく授業が選択できるとか、空きコマができる形で生徒たちが授業を作っていくとか、しっかりやられている単位制というのは、空き時間含め8限まで設定していたりするんですけども、そのような学校はほとんどありません。国が示している理想的な単位制と埼玉県の単位制には少しギャップがあって、大丈夫なのかといった議論があります。そういった中で、新校に単位制が相応しいということになれば、検討していく必要があるかと思いますが、現時点では課題が残るということで、この部分についてはペンディングしており、本日の資料からは外させていただいております。この辺りでは本庄高校や熊谷高校をイメージするかもしれませんが、両校とも理想的な単位制の教育課程を組んでいないということもあって、その点の難しさがあるということについて、委員の皆さんの共通理解としておいていただきたいと思います。単位制については現時点でできるとかできないという結論は出さずに、今後、両校の教頭先生を通じて事務局と調整していきたいと思っています。

永田委員 皆野高校では現在、くくり募集をしており、2年生から商業科と情報処理科に分かれます。新校でも、1年生は全員同じ学びで2年生から普通科と国際探究科に分かれる、といったくくり募集はできるのでしょうか。それと新校は地域と一体となって作っていくことになるわけですが、自分たちの孫世代が魅力を感じて入学したいと思えるような新校にするためには、市町村教育委員会との連携が一番大事であるというのが、教員人生の中で感じたことです。秩父市だけでなく周辺の市町も含め、それらの教育委員会がうまく新校を宣伝してくれて、是非入学してほしいと心から思っています。そういったところについて、県から秩父市教育委員会にはどういう話をしてくれるのか、お聞きしたいと思います。

事務局 くくり募集については入試のことなので関係課と相談しなくてはならないのですが、一つの場合かと考えております。ただし、2年生で2学科に分けるときに、必ず国際探究科を40人におさえなければならないため、分け方が難しくなってしまうのかなという恐れもあります。市町村教育委員会との連携については、新校準備委員会では両市町の教育委員会の代表が委員として出席していただき、意見交換しております。そういったところで市町とも連携は図れているかと思っております。PRも含めてこちらからも連携を促していきたいと思っています。

栗藤委員長 市町との関係については新聞報道等でもご存じかと思いますが、市町からはいろいろな意見をいただいている中でやりとりをしてくれています。現在は新校準備委員会に市町教育委員会の担当者がいます。他にも横瀬町、長瀬町、小鹿野町、東秩父村などもチャンネルがないわけではありません。地域を盛り上げていくために、県と市町が一緒になってやっていくというのは大事な視点であると感じているところです。

野澤委員 これだけ大きなプロジェクトなので、学校の中に開設準備室が設けられ、専属で教員が配置されるくらいでないといけないのではないかと感じています。例えばSSHのイメージなんですけれども、新校開校に際して、人は充てていただけるのでしょうか。結構切実な問題であると思いますので、質問させていただきました。

栗藤委員長 人を充てるというのも予算が関係するので、明確にお約束することはできないのですが、第1期の児玉高校と飯能高校の例を挙げると、開設準備室を作ったわけではないのですが、事務局を教育局内に置き、各校には主任管理主事を兼ねた教頭が置かれます。現在も両校の教頭先生は兼務教頭でいらっしゃいます。今は通常の教頭業務に重ねて兼務の仕事をお願いしているので大変お忙しいと思います。予算の話は抜きにして第1期の流れでいくと、来年度からは増員して専属で働ける教頭先生を置きたいと考えています。お約束はできませんが、これまではそういう形をとってきています。何かしらの形で人を充てられたら良いとは考えています。この後、予算折衝というプロセスもありますので、こちらは獲得する方向で全力を挙げたいと思っていますし、関係課とも調整しながら、力を入れてやっていきたいと思っています。開設準備室を置くというのは、これまでもありませんでしたし、これからも考えてはいませんが、それくらい大きなプロジェクトなので、専属のスタッフを置くくらいことは用意したいなという思いはあります。本日お示した骨子案については準備委員会で地域の方の意見も伺いながら事務局でブラッシュアップしていきたいと思っています。そういったプロセスの中で事務局と学校をつなぐのが兼務教頭先生です。今後も委員の皆さんから御意見があれば教頭先生を通じてお願いしたいと思っています。本日はここまでとしたいと思っています。ありがとうございました。